

キッズソーラン節や紙芝居を元気いっぱい披露した
滝尾小5年生児童たち



緑と清流の里にホタル乱舞

水越地区「ホタルを見る会」

県内有数のホタルの生息地と知られる水越地区で6月6日、「ホタルを見る会」が開催され、町内外から多くの鑑賞客が訪れました。公民館水越分館(岩崎泰三館長)が地域振興などを目的に行なっているもので、今回で15回目。夕闇に包まれた午後8時から、水越川や田畑川付近を散策すると、無数に輝く「光の宝石」が辺り一面を飛び交い、鑑賞客の目を楽しませました。このほか、元水越小学校体育館で、滝尾小5年生児童の「キッズソーラン節」や、同地区有志の「風神太鼓」などの披露もあり、鑑賞客をもてなしていました。

日本文化と礼儀を茶道から学ぶ

中国人留学生を招いて茶会

門岡順子さん(滝尾) 宅の茶室で6月5日、中国人留学生など3人を招いて茶会が開かれました。日本の伝統文化「茶道」を親しんでもらおうと福永明夫さん(滝尾)が仲介して企画されたものです。門岡さんは、洗練された点前で一人ひとりに茶を振舞い、茶席での礼儀作法、茶のたて方などを丁寧に指導されました。参加者で県職員の劉嵐さん(中国広西出身)は、「茶道には礼儀があり、間違ったら大変失礼。難しかったけど、茶の香りや味、茶碗の模様を楽しめた」と話されていました。



門岡順子さん(左)から茶のたて方を教わる劉嵐さん(右)

〆幻の滝、1年ぶりの雄姿

七滝ふるさと滝まつり

5月10日、七滝ふるさと滝まつり(七滝観光推進委員会主催)が七滝神社周辺で開催され、普段は枯れている七滝が1年ぶりに姿を現しました。名滝として知られる七滝(高さ約40㍍)は、水流の侵食によってできた7段の岩を落下することからその名があり、「七越ノ滝」ともいわれています。この七滝は、昭和12年以降、上流にできた発電所用ダムへの取水で、水の流れない〆幻の滝、となっていました。地区住民たちの要望で、平成元年から年に一度だけ放水が行われています。見物客たちは、この日しか見ることでできない〆幻の滝を一目見ようと滝つぼへとつながる遊歩道を下り、豪快な滝の雄姿に歓声を上げていました。滝まつりではこのほか、太鼓やトランペットの演奏、大道芸などもあり終日にぎわっていました。



トランペット演奏や大道芸で盛り上がった滝まつりの会場

引き締まった体で豪快にソーラン節を演じる男子生徒たち



乳幼児健診は布絵本で遊ぼう

母子保健推進員布絵本制作

このほど、母子保健推進員(川上愛子代表)が布を使った絵本を制作し、保健センターで毎月行われている乳幼児健診で好評を得ています。これは、同推進員が乳幼児健診の待ち時間を少しでも楽しく過ごせればと、約5か月の期間をかけて完成させた力作です。布絵本(縦35㍍×横35㍍)は、全部で27枚。3か月児から3歳児までの乳幼児に合わせて、動物や虫、花などの工夫を凝らした作りが特徴です。川上代表は、「これからも、健康で明るく楽しい子育てができるお手伝いをしていきたい」と話されていました。



布絵本を制作された母子保健推進員のみなさん

町民視点で活発な意見が出された上野地区の様子



町民と対話型の議会へ

町議会報告会

御船町議会(田中隆敏議長)は5月11日から14日まで、議会報告会を町内10カ所で開催し、延べ348人の町民が参加して意見を交換しました。これは、町議会を町民により身近に感じてもらう対話型の議会運営を目的としたもので、今回で2回目。まちづくり計画書と議会広報紙「あおぞら」を基にした説明が行われた後、参加者からの質疑や、地域からの要望などが出され、各議員から詳細な説明がなされていました。同報告会に参加された上野地区の50歳代・女性は、「(議会報告会に)参加すれば、町の全体像が見えると思った。ただ、意見をする人が毎回同じ人なのは残念。執行部で(意見ができる環境)の調整と多くの方の幅広い意見をより多く町政へ反映させていただきたい」と切実な胸のうちを話されていました。

伸び伸びと中学生らしく

御船中体育大会

御船中学校(高野隆校長、526人)で5月24日、第58回御船中学校体育大会が開催されました。今年は、「Heat Up～燃え上がれ 熱い心～」を大会スローガンに掲げて、5つの団にわかれての白熱した競技が繰り広げられました。競技は、100㍍～1500㍍走や学年別リレーなど全25種目で、練習の成果と自慢の健脚を競いました。全校男子生徒による民舞ソーラン節では、上半身裸になり練習で真っ黒に日焼けした肌を露出して、熱のこもった力強い演技が披露されると、観客から盛んな拍手が送られていました。